

ハイデルベルク信仰問答より

問 75 十字架のキリストの唯一の犠牲と、そのすべての益にあなたがあずかっていることを、聖餐において、あなたはどのように思い起こし、確信させられるのですか。

答え このようにしてであります。キリストは、私とすべて信じる者たちが、主を記念して、この裂かれたパンを食し、この杯から飲むことを命じました。それによって、主が私のためにご自分のからだを十字架の上で捧げられ、裂かれ、主の血が私のために流されたことを約束されたのであります（問 77 以下を参照）。それは、主のパンが私のために裂かれ、杯が私に分かち与えられるのを、私が自分の目で見るのと同じほど確かなことでもあります。第二は、キリストのからだと血の確かなしるしとして、私に与えられた主のパンと杯を、奉仕者の手から受け、現に食べるのと同じほど確かに、主ご自身がその捧げられたからだと流された血をもって、私の魂に飲食せしめ、永遠の生命のために私の魂を育ててください、ということ約束してくださったのであります。

洗礼に関する学びに続き（問 69-74）、今日から聖餐に入ってまいります（問 75-80）。聖餐は、その理解をめぐる教派間の対立さえ生み出してきたものですが、最初に聖餐式を執行し歴史の終わりまでその継続を命じられた主イエス¹がそのような結果を求めておられたはずはないでしょう。各教派における聖餐理解を把握し、それを尊重しつつ、私たちが立っている考え方を明確化し、その真理をより深く認識することを目標といたします。

聖餐を表す用語：

- ① 主の晩餐（the Lord's Supper）
 - ・最も一般的にプロテスタント教会で使われている用語
 - ・「聖餐式」「聖晩餐」とも（特に日本のプロテスタント教会、聖公会）
- ② ユーカリスト
 - ・ギリシア語の「エウカリスティア(εὐχαριστία)」(感謝) という意味の名詞に由来
- ③ 聖体祭儀、聖体の秘跡（カトリック教会）
- ④ 聖体礼儀、聖体機密、領聖（正教会）

問 75 の内容を見ると、洗礼と聖餐の役割の違いが明らかにされていることが分かります。
 洗礼……キリストの犠牲の御業が信者の内で生き始めた一回的な経験
 聖餐……洗礼で始まったことが絶えず信者の内で繰り返される継続的な経験

¹ マタイ 26:26-28、マルコ 14:22-24、ルカ 22:19-20、I コリント 11:23-29

繰り返し行なうのは「思い起こし、確信させられる」ためであって、主イエスが信者に「わたしの命がけの愛を決して忘れてはいけないよ」と念を押しておられる営み、それが聖餐であります。確かに、私たちは主イエスをこの眼では見たことがなく、ただ聖書を通して福音を知り、そのことばを信じたのです。その約束のことばを絶えず思い出すために、聖餐という機会が与えられました。

答えの部分を丁寧に見てまいりましょう。私はこの答えの中に繰り返し出てくる「私のために」とそれに類似する表現に着目しました。ほかならぬ私のために主はいのちを捨ててくださったのだという著者の感激に、読者一人びとを引き込もうとしているようです。

キリストは、**私とすべて信じる者たちが**、主を**記念**して、この裂かれたパンを食し、この杯から飲むことを命じました。

まずここでは、聖餐が「記念」であることが前提とされています。これは主イエスご自身が用いられた表現であり（「わたしを記念としてこれを行いなさい」）、言わばモニュメントのように聖餐を記念碑とすることが求められているのです。「記念する」を「意味する」と言い換えてみてもよいでしょう。パンと杯は、主が流された血、つまり犠牲の死を意味するのです。

それによって、主が**私のために**ご自分のからだを十字架の上で捧げられ、裂かれ、主の血が**私のために**流されたことを**約束**されたのであります。

聖餐は「約束」でもあります。より正確に言えば、約束が永遠に変わらないことを示すもの。主イエスの犠牲の死が恒久的に私たちのためであり続けるという約束を可視化しているのです。人間同士の約束は破られることがあります。しかし、主イエスはご自身の真実にかけてこれを守り抜いてくださるお方です。

それは、主のパンが**私のために**裂かれ、杯が**私に分ち与えられる**のを、私が**自分の目で見る**のと同じほど確かなことでもあります。

聖餐は、飲食の前に「自分の目で見る」ものです。ある教会では、聖餐式に際して会衆の目の前で牧師が一つのパンを裂いて見せることが伝統とされています。これは「パン裂き」の意味を視覚的に理解する上で有効な手段でしょう。一つの主のからだは十字架上で裂かれ、多くの人のためにそのいのちが分け与えられる、そして、同じいのちを受けた者たちは、主から受けたと同じ愛をもって隣人と関わる。この真理をよく表しています。

キリストのからだと血の確かな**しるし**として、**私に与えられた**主のパンと杯を、奉仕者の手から受け、現に食べるのと同じほど確かに、主ご自身がその捧げられたからだ**と**流された血をもって、**私の魂に**飲食せしめ、永遠の生命のために**私の魂を**育ててくださる、ということ**を約束**してくださったのであります。

ここには「しるし」という表現が出てきます。「しるし」とは「象徴」であって、本体そのも

のの代わりとなるものです。パンと杯をいただくということは、その人がキリストものであるということのしるしであって、キリストのいのちが彼／彼女の内では生きています。私たちの体は食べたものと飲んだものによって形成されているでしょう。聖餐のパンと杯は、私たちが主イエスご自身をこの「魂」に取り入れていること（御霊の内在）をリアルに表しているのです。

以上のことから、主イエスがどれほどの思いと配慮とをもって聖餐を制定して下さったかを理解できるのではないのでしょうか。一回一回の聖餐式に心を込めてあずかりたいと思います。